

国立病院機構熊本医療センター

No.180



くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸1番5号
TEL (096)353-6501(代)
FAX (096)325-2519

地域医療連携室機能強化のご紹介

開放型病院登録医の先生方には、日頃、多数の患者さまをご紹介頂き大変ありがとうございます。地域医療連携室は、平成24年4月より副室長として大塚忠弘脳神経外科部長、非常勤看護師として荒田和江看護師の2名が新たに加わり、医師2名、看護師3名、患者さまの紹介受入業務を担当する前方連携担当の事務職3名、退院支援・転院調整、福祉・介護支援を担当する後方連携担当のメディカルソーシャルワーカー（MSW）5名の計13名とさらに充実した体制となりました。

入院患者さまが増加し病床が不足する状況の中で、24時間365日断らない医療を継続するためには、転院調整が地域医療連携室の重要な役割となっています。転院を急ぐときには、主治医が直接、転院先を探しますが、転院困難な患者さまはMSWが患者さまの状況、必要な処置、障害の程度、介護度に合わせ、受け入れ可能な医療機関を探し、ご快諾頂いた医院・病院に転院して頂いております。また、紹介なしに直接当院を受診した患者さまで、当院には必ずしも入院の必要はないが、入院加療を希望する患者さまを、自宅近くの医療機関へ入院をお願いすることも今後は増えると考えられます。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

がん相談支援も地域医療連携室の重要な役割です。がん看護専門看護師である安永浩子が診療緩和関連の相談支援を担当し、MSWが福祉、介護関連の相談支援を担当しております。患者さま主体で「二の丸がんサロン」を当院の研修センターで、平成23年4月より月1回開催しております。現在、13回と回を重ね、がん患者様のこころの支えとなっております。がん連携クリティカルパスによる連携は、従来、退院時のみ、がん診療連携指導料の算定開始が可能でしたが、退院後

30日まで可能となりました。連携クリティカルパスによるがん連携にもご協力の程、よろしくお願いいたします。

インターネットによる地域連携システム（りんどうネット）を平成22年5月に開始し、一部の病院で試用して頂いておりましたが、現在、ご参加頂ける医療機関を広く募集しております。平成23年11月クラウド型にバージョンアップし、平成24年2月より、放射線画像も参照可能となりました。同システムに登録して頂きますと、同意が得られた患者さまの当院の電子カルテの診療録の一部、臨床検査結果、放射線画像、サマリ、手術記録、病名、患者プロフィール、看護プロフィールなどが参照可能となります。平成24年11月には、内視鏡、超音波検査、病理検査の報告書、画像も参照可能となる予定です。詳細は、地域医療連携室までお問い合わせ下さい。

地域医療連携室は地域の医療機関、かかりつけ医の先生方との連携を深め、患者様が安心して医療・福祉を受けられるよう日々、研鑽しております。今後とも、ご支援のほど、よろしくお願い致します。

（統括診療部長・地域医療連携室長 片渕 茂）



基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営



「桜湯復建」

医法) 昭陽会

まえはら泌尿器科
クリニック

院長 前原 昭仁



約10年勤務した熊本中央病院を辞して故郷である山鹿市で泌尿器科を開業しこの春でちょうど十年になります。山鹿市は県北に位置する人口約55,000人の小さな市です。豊前街道の宿場町として繁栄した歴史があり、私が幼少の頃には道後温泉に做った桜湯を中心に情緒と活気がある町であったと記憶しています。桜湯は老若男女を問わず市民のコミュニケーションの場で、夕方になると子供達は十円玉を握りしめて集まったものです。1973年に都市再開発事業のため解体された桜湯が今年秋には当時の面影を残

す佇まいで新たに誕生します。私自身とても楽しみにしています。山鹿灯籠祭、八千代座、平山温泉、豊前街道の町並みと共に観光メッカになることでしょう。皆様もぜひ訪ねていただきたいと思います。

しかしながら過疎化の波は止まらず、人口はこの十年で約10%減少しています。鉄道、高速道路も無く、企業誘致も進まず、当然高齢化も深刻な課題で医療、介護の必要性は高まるばかりです。熊本市中心部まで約1時間の距離にもかかわらず、当地での治療を望む住民が多いことに驚かされています。昨春新装開院した山鹿市民医療センターを中心に、民間医療機関が互いに連携し、可能な限り当地での完結医療が理想であろうと考えています。農業、観光に加えて医療、福祉、介護は当地での雇用、税収を生む重要産業の一つです。拙院でも経尿道的手術を行います。リスクの高い患者さんは当然躊躇します。私が昔そうであったように山鹿市民にとって白川の向こう側には疎い傾向がある様に思います。貴院は山鹿から最も近い泌尿器科基幹病院であり、更に電話一本で快く受け入れていただき何度も助けていただきました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。ご多忙極まりないとは存じますが、健康に留意され更なるご活躍をお祈りします。また、引き続きご指導くださいますようお願いいたします。

臨床研修説明会について

来年度の臨床研修に向けて医学生の方々には主に金曜日に病院見学に来ていただいております。病院説明会のシーズンとなりました。5月13日にはアクロス福岡で厚生局主催の説明会が開催され、参加いたしました。

6月16日(土)には、当院開催の「医学生のための臨床研修説明会」を14時から18時まで研修センターホールで開催いたします。当院の指導者、研修医と医学生の意見交換を予定しています。奮ってご参加ください。

7月14日(土)には九州医療センターで、九州の各国立病院が集まっての合同説明会です。国立病院機構の取り組みをしっかりと広報していきます。当院での研修に興味を持っている学生さんがおられましたら、ご参加いただきますようお願いいたします。
(教育研修部長 清川 哲志)

臨床研修説明会

日時：平成24年6月16日(土) 14:00~18:00

場所：国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センターホール

施設紹介

二の丸保育園

国立病院機構熊本医療センターの一角から元気な子ども達の声が聞こえてきます。

熊本医療センターの職員のこどもさんを保育しています。

昨年、園舎を改築、檜の床となりとっても気持ちよくなりました。

「子育て中のおとうさんおかあさんが安心して働けるように、こどもの成長発達が保障される場でありたい」と保育園スタッフ一同、環境整備や学習に力を入れ努力しているところです。

産休明けより就学前までの、幼年期は人間の土台づくりの大事な時期です。

「太陽と土と水にまみれておおきなあれ」をスローガンに「発達の順番を大切にする保育」を心がけています。
(二の丸保育園園長 相澤 幸代)



気持ちよい緑の中へ 散歩にほとんど毎日出かけます。



“身体づくり”に食事は大切です。添加物なし、無農薬の五分づき米、野菜中心に作ります。



子どもたちの大好きなリズム遊び 丈夫でしなやかな身体になります。

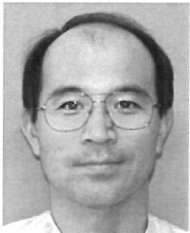


どろんこ、水遊び、五感に刺激を与える子どもたちに欠かせない教材です。

2012
診療科紹介 (49)
精神科



部長
渡邊 健次郎
精神神経一般・うつ病
リエゾン精神医学・精神科救急
精神保健指定医



医長
山下 健昭
精神神経一般・うつ病
緩和ケア・精神科救急
精神保健指定医

診療内容と特色

50床の精神病床を有する総合病院の中の精神科という特徴を生かし、単科の精神科病院や精神科診療所では対応困難な精神障害の患者様を病診、病病連携を通じて受け入れております。特に、精神障害と身体疾患を同時に有する身体合併症の患者様の治療については、他科の先生の協力のもとに積極的に行なっております。さらに、当院が救急医療に力を入れていることを反映して、精神科の救急患者も著名に増加してきており、特に最近急増している自殺未遂・自傷行為の患者様に対しては、身体面の治療と同時に精神面での対応を行っております。

診療実績

【平成23年度】

- 一日平均外来患者数：48.7名
- 精神科外来新患者数：872名
- 精神科病棟入院患者数：917名
- 平均在院日数：19.8日
- 精神科救急患者数：1,107名（救急車：636台）

研究実績

日本総合病院精神医学会、日本精神科救急学会、熊本精神神経学会などへの研究発表を行っております。



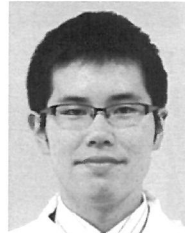
医師
橋本 聡
精神神経一般・うつ病
リエゾン精神医学・精神科救急
精神保健指定医



医師
小田 篤介
精神神経一般



医師
松田 倫子
精神神経一般



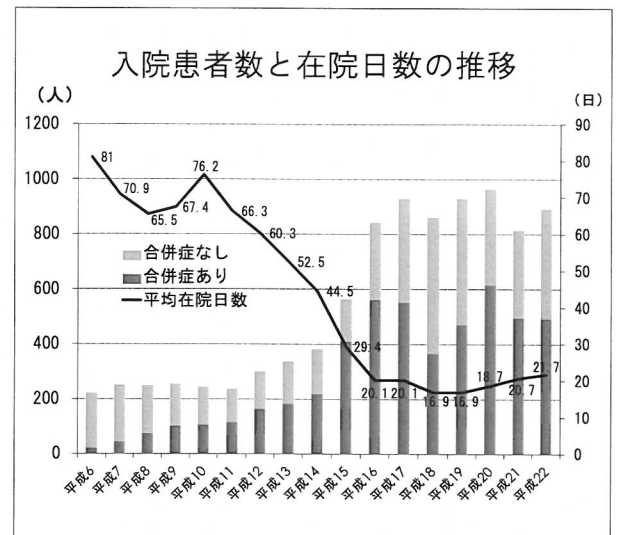
医師
宮川 雄介
精神神経一般

また、講演会を通じて精神科救急や、メンタルヘルス、うつ病などについての啓蒙を行っております。

ご案内

患者様につきましては、診療情報提供書や、電話などでご紹介くださいますようお願いいたします。救急症例の場合はいつでも結構です。

その他、お困りのことがありましたらいつでもご連絡下さい。



精神科病棟入院患者数の推移

池井聰先生退任記念祝賀会が開催されました

去る5月12日(土)、ホテル日航熊本におきまして、池井聰前院長の退任記念祝賀会が行われました。

野村一俊副院長の開会の挨拶で始まり、発起人代表である河野文夫院長の挨拶、九州厚生局長朝浦幸男様、熊本県健康福祉部長林田直志様、熊本大学大学院生命科学研究部長及び熊本大学医学部長であられる竹屋元裕様、熊本県医師会長福田稠様、国立病院機構九州ブロック担当理事村中光様の5名の方々からご祝辞を頂きました。

続いて、記念品及び花束の贈呈があり、池井聰前院長よりお礼の言葉を頂きました。

その後、池井聰前院長をはじめ来賓の方々総勢16名



池井先生のご挨拶



鏡開きの様子

による盛大な鏡開きが行われ、熊本大学医学部附属病院院長猪股裕紀洋様による乾杯のご発声で宴が催されました。開宴の中では、熊本市医師会長福島敬祐様、熊本市歯科医師会長清村正弥様より、暖かいお言葉を頂きました。

酒宴も滞りなく進み、最後に高橋毅副院長の音頭で、池井聰前院長のこれまでの功績へのお礼と今後益々のご活躍を祈念して出席者全員による一本締めを行い、閉会となりました。

この祝賀会には熊本県内外から、360名を越える多数のご出席を頂きましたが、皆様方のご協力により無事終了することが出来ました。本当に有り難うございました。(管理課長 中村 敦)

二の丸がんサロン、開設1周年を迎えました

当院では、平成23年4月より毎月第1金曜日に「二の丸がんサロン」を開催しています。

がんサロンとは、患者さん・ご家族同士が病気について語り合うことにより癒し・交流・情報交換の場として患者さんが主体となって行われているものです。県内において22ヶ所のサロンが誕生しています。当院のようながん診療連携拠点病院で開催されているサロン、ご自宅を開放されて開催されているサロンや行政と連携して開催されているサロンなど形態は様々です



「二の丸がんサロン」の旗ができました。(リレーフォーライフくまもと2012にも参加しました)



4月には二の丸公園にてお花見をしました♪

が、患者さんが治療生活の中で感じられている不安なこと、疑問に思われていることなどの様々な思いを仲間同士で語り合える場を多く求められています。二の丸がんサロンは、後方病院の先生方にご高診いただいている地域の患者さんもお参加可能です。またご支援していただいている医療従事者の方のご参加も可能です。

「二の丸がんサロン」にご参加されてみませんか? たくさんの方々のご参加をお待ちしております。

(地域医療連携室 西迫はづき)

【開催日】 毎月第1金曜日 13:00~15:00

【場所】 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター 研修室3

【問合せ先】 国立病院機構熊本医療センター (代) 096-353-6501

地域医療連携室(相談支援センター) MSW西迫

最近のトピックス

WHO骨折リスク評価ツール
(FRAX®) について

整形外科医長

前田 智

現在、わが国における骨粗鬆症患者は1,300万人と推定され、高齢化を背景に経年的に増加しています。さらに欧米各国で減少傾向にある大腿骨近位部骨折が、わが国では逆に増加傾向にあります。欧米では骨折予防薬としての薬剤が積極的に処方されているのに対し、わが国の場合、骨折して初めて骨粗鬆症が発見されることが多く、通院患者は骨粗鬆症患者の20%程度であり、治療の継続率の低さも問題となっています。高齢者の骨折の基礎疾患には必ず骨粗鬆症がありますので、何も対策を講じなければ高齢者の骨折は今後もさらに増え続けるものと予想されます。2008年WHOは個人の10年以内の骨折確率を求めるツール、FRAX®を公表し、わが国の骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2011年版でも薬物治療開始基準にその内容が取り入れられています。

WHO骨折リスク評価ツール (FRAX®) とは

WHOのFRAX® (<http://www.shef.ac.uk/FRAX>) は、骨密度あるいは危険因子によって、個人の骨折リスクを評価し、薬物治療開始のカットオフ値として使用されることを目的として作成されたツールです。世界中のどの国でも、すべての臨床家が使用できるように作成され、個人の将来10年間の骨折発生確率(%) (大腿骨近位部骨折、主要な骨粗鬆症性骨折) が算出できます(図1)。FRAX®に使われている危険因子は、年齢、性、大腿骨頸部骨密度(骨密度が測定できない場合はBMI)、既存骨折、両親の大腿骨近位部骨折歴、喫煙、飲酒、ステロイド薬使用、関節リウマチ、続発性骨粗鬆症です。治療開始のカットオフ値は、医療経済や医療の状況を考慮して決めるよう各国に委ね

られています。わが国の骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2011年版では、FRAX®による主要骨折10年危険率15%以上で、75歳未満の場合には薬物治療を開始することを推奨するとされています。

FRAX®の臨床応用は

危険因子のみを用いたFRAX®は、日常診療や骨粗鬆症検診におけるスクリーニングに利用できます。日常診療では、医療機関を受診している無症状の高齢者において、潜在的な骨折高リスク者を判別するスクリーニング手段として使えます。また、FRAX®は多くの住民を対象にした骨粗鬆症検診に適しています。しかし、現時点では骨粗鬆症性骨折の確率がどの程度あれば要精検とするのかというカットオフ値が明確になっていません。今後、適切なカットオフ値を設定することができれば、幅広く骨粗鬆症検診に利用できるでしょう。また、現在行われている骨量測定と組み合わせることで、より効率のよい骨粗鬆症検診を行える可能性があります。

骨折リスク評価ツール (FRAX®) は、世界のコホート研究のメタアナリシスから得られた危険因子を用い、骨折高リスク患者を判別し、治療介入の指標とするものです。現時点ではFRAX®にはいくつかの限界があるものの、簡便な方法で、骨折高リスク者を判別できるものだと思います。

【図1 FRAXのサイト概要の他、計算ツール、FAQ、図表などを掲載 (<http://shef.ac.uk/FRAX>)】



いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ65回

癌化学療法時のCINV予防における各種制吐剤の臨床効果

薬剤科 川上 恵子



癌化学療法によって誘発される悪心・嘔吐（以下CINV）は、発現頻度が高く苦痛な副作用の一つです。患者のQOLを保ちながら治療を継続するために、CINV予防は重要な課題とされています。CINVは抗癌剤投与後、24時間以内に発生する急性CINVと、24時間以降に発生し5日程持続する遅発性CINVに分類されます。これまでに急性CINVに対して5-HT₃受容体拮抗薬が優れた制吐効果を示すことが知られ、用いられています。近年、5-HT₃受容体拮抗薬の中でもパロノセトロンは、高度催吐性抗癌剤の遅発性CINVに対して、デキサメタゾン併用下で従来のものより優れた制吐作用をもつことが報告されました。

婦人科においては、シスプラチンやシクロフォスファミド、アンサラサイクリン系などの高度催吐性の抗癌剤を基とした併用療法や同時化学放射線療法が主ですが、近年ではカルボプラチンやネダプラチンにイリノテカンやパクリタキセルなどの中等度催吐性抗癌剤の併用療法も汎用されています。しかし高度・中等度催吐性抗癌剤治療の制吐療法で5-HT₃受容体拮抗薬としてパロノセトロンを用いた臨床試験は少ないのが現状です。そこで、高度・中等度催吐性抗癌剤治療における各種制吐剤の有効性と安全性の検討を目的として、CINVの調査を開始しました。H23年5月より当院婦人科において抗癌剤治療初回開始の方を対象として、治療開始から5日間「制吐剤治療日記」の記録をつけていただいています。

内容は、抗癌剤治療から5日間の ①悪心・嘔吐の状況 ②摂食状況（いずれもVASスケール） ③追加の制吐剤内服の記録です。抗癌剤投与後の制吐処置に関しては、内服薬を記録していただく他に追加注射を診療録より確認します。1日目の①より急性CINV、

2～5日目の①より遅発性CINVの嘔吐抑制率の評価を行います。

今回の制吐剤の検討においては初回化学療法が評価対象ですが、2回目以降も可能な限り日記を記録していただくようにしています。抗癌剤治療が入院から外来へ移行すると、当院の現状では薬剤師が患者に継続して関わっていくことは困難です。しかし、治療日記からCINVの状況や制吐剤変更における改善状況などの確認を行えるようになりました。現在開始して1年、評価対象に該当する症例は少なく、今後も検討を行う予定です。この取組みを通して、患者のQOLの保たれた治療の助けとなるよう努めたいと思います。

制吐剤治療日記の内容

第15回 二の丸肝臓談話会のお知らせ

（日本医師会生涯教育講座 1.5 単位認定）

この度、第15回二の丸肝臓談話会を下記の要綱にて開催したいと存じます。

何かとご多忙中とは思いますが、万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようお願い申し上げます。

座長：清水まごくクリニック

院長 木村 忠司 先生

【講演1】「2012年慢性肝炎診療ガイドライン」

国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長

中田 成紀

【講演2】「当院でのテラプレビル3剤併用療法の経験症例」

国立病院機構熊本医療センター消化器内科部長

杉 和洋

【講演3】「IFN地域連携パスポートに関する患者アンケートの結果より」

国立病院機構熊本医療センター7西病棟看護師

古川美由紀

日時：平成24年6月11日（月） 19：00～20：30

場所：国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター消化器内科部長 杉 和洋 TEL：096-353-6501（代表） FAX：096-325-2519

新任職員紹介



放射線科

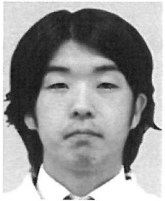
ね ぎし たか のり
根 岸 孝 典

4月よりお世話になっております。

3月まで5年近く熊本地域医療センターに勤めていました。医局人事で各地を転々としてきた身としまし

ては、今回は同じ熊本市内で移動とのことで、引っ越しをせずに済み大変嬉しく思っています。

熊本地域医療センターでは主に画像診断一般、消化管検査などを通常業務としてこなしてきましたが、当院では求められる役割が変わってくる部分がありますので、成長できる機会を嬉しく思う反面、プレッシャーも感じています。不慣れなことが多く、大変ご迷惑をおかけすると思いますが、ご指導の程、宜しく願いいたします。



小児科

もち なが まさ ほ
持 永 將 恵

初めまして、4月より小児科医として赴任させてい

ただくことになりました、持永将恵（もちながまさほ）です。平成15年に熊本大学を卒業して、今年度で10年目になります。大学時代はバスケットボール部に所属していたのでフットワークは軽いつもりです。

地域の先生方にはご迷惑をかけることもあると思います。どうぞよろしくご指導くださいますようお願いいたします。



皮膚科

お がた あ き
緒 方 亜 紀

平成24年4月より梶原先生の後任として勤務することになりました皮膚科の緒方亜紀と申します。平成16

年に宮崎医科大学を卒業し、熊本大学・熊本医療センターでの初期研修を経て、熊本大学・NTT西日本病院・飯塚病院で皮膚科の研修を積みました。大学院を3月に卒業し臨床に復帰したばかりですが、自身の臨床力不足に悪戦苦闘の毎日です。まだまだ未熟ではありますが、地域の先生方と円滑な医療連携が図れるよう精一杯頑張ります。何かございましたらいつでもご遠慮なさらずにご連絡ください。ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



腎臓内科

さか なし あや
坂 梨 綾

このたび4月1日から勤務することになりました腎臓内科の坂梨綾と申します。宮崎大学を平成19年に卒業し、医師になってから本年度で6年目ですが、熊本大学、荒尾市民病院で研修をさせていただき、腎臓内科

に入局後は1年間熊本大学で、2年目から荒尾市民病院にて2年間勤務致しました。これまでは腎臓内科全般を中心に腎炎の治療や透析シャント手術、PTA、血液・腹膜透析に携わってきましたが、まだまだ勉強不足の身ではありますので、今後も勉強させてもらいたいと思っております。また、この病院では救急疾患が数多く経験できると伺いましたのでCHDFや血漿交換等の血液浄化もより一層学ばせていただこうかと思っております。先生方にもお世話になるかと思っております。どうぞ宜しく願いいたします。



精神科

お だ とく すけ
小 田 篤 介

平成24年4月より精神科で勤務することになりました小田篤介と申します。

平成19年3月に熊本大学を卒業後、熊本大学病院と球磨郡公立多良木病院にて初期研修を行いました。平

成21年4月より熊本大学神経精神科に入局し、1年間大学病院に勤務後、菊池病院、肥前精神医療センターにて1年間ずつの勤務を経て、この度当センターに配属となりました。

これまでは精神科単科病院での勤務が多く、リエゾン業務の経験は不足していますが、皆様方と連携しながら、今までに学んできた精神科としての専門性を発揮できればと思っております。初心を忘れずに成長していきたいと思っておりますので、ご迷惑をおかけすることもあるかと思っております。何卒宜しく願いいたします。

新任職員紹介



泌尿器科

せ がわ たく や
脊 川 卓 也

平成24年4月より泌尿器科で勤務させて頂いております脊川卓也と申します。

平成19年に熊本大学を卒業し、2年間の初期研修後

平成21年に泌尿器科に入局しました。その後は熊本大学病院、公立玉名中央病院、熊本市市民病院で勤務いたしました。

当院では豊富な手術症例・救急疾患症例を中心に日々の診療に励みたいと考えております。

肉体的・精神的にも非常にタフになれる病院とうかがっており、日々精進していきたいと思っております。まだまだ未熟な点が多く、みなさまにはご迷惑ばかりおかけするかと思っておりますがご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



神経内科

よね もち やす ひろ
米 持 康 寛

皆さん、はじめまして。4月から国立病院機構熊本医療センターで働かせていただいております神経内科の米持康寛（よねもち やすひろ）と言います。医師に

なつて4月で5年目になります。2年間の初期研修は熊本大学病院で行い、平成22年の4月に熊本大学神経内科に入局し、10月より熊本南病院で働かせていただきました。南病院では、変性疾患をみる事が多く、救急医療には不慣れでありご迷惑をかけることが多々あると思っておりますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。臨床医として救急医療をしっかり学び今後の医療に役立てるように精一杯頑張ります。更なるご指導賜りますようお願い申し上げます。



精神科

まつ だ みち こ
松 田 倫 子

このたび、精神科に勤務することとなりました松田倫子と申します。平成20年に金沢医科大学を卒業後、熊本市市民病院を中心として、弓削病院、蘇陽病院にて初期研修をいたしました。平成22年に熊本大学医学部神経精神科に入局し、次年は熊本県こころの医療センターに勤務いたしました。

精神科を有する数少ない総合病院である当院において、当科としてわずかでもお役に立てればと思っております。色々ご指導を仰ぐ機会も多いと思っておりますが、皆様よろしくようお願い申し上げます。



総合診療科

よし だ よう こ
吉 田 庸 子

平成24年4月より勤務させていただくことになりました吉田庸子と申します。平成21年に和歌山県立医科大学医学部を卒業し、国立国際医療研究センター病院で2年間内科系初期研修を終了した後、国立国際医療研究センター国府台病院心療内科で1年間勤務しまし

た。前院では心身症一般と摂食障害の症例を多く経験させていただき、身体的に重症な症例や救急対応が必要な例も多く内科的管理の重要性も認識しました。ストレス関連障害、気分障害に興味があり、今後は精神科の専門性を身に付けた上で身体科、プライマリケアにおける精神医療やリエゾン精神医療に貢献できることを目標としています。急性期の総合病院で精神医療に力を入れている病院が少ない中、今回ご紹介をいただいて勤務させていただく運びとなりました。まだまだ未熟者で御迷惑をおかけすることが多々あるかと存じますが、何卒ご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



血液内科

にし むら なお
西 村 直

はじめまして。今年度より血液内科にレジデントとして配属になりました西村と申します。熊本市市民病院

と大学病院で初期研修を行った後、大学の血液内科に入局しました。一年間医員として診療に当たっていましたが、血液疾患は診断・治療とも苦渋する症例が多く、全体的にはまだまだ成績は厳しいと感じました。そんな中で、大きな治療の柱である造血幹細胞移植をここで学べる事は大変貴重な体験と考えております。まだまだ、一人前には程遠く、力不足を痛感する毎日ですが、少しでも皆様のお役に立てればと考えておりますので、何卒よろしくお願い致します。

新任職員紹介



糖尿病・内分泌内科

のぶ おか けん たろう
信岡 謙太郎

平成24年4月1日より、糖尿病内分泌内科でお世話になることとなりました信岡謙太郎と申します。平成21年に愛知医科大学医学部を卒業しまして、久留米大学病院で2年間卒後研修を行いました。平成23年より

熊本大学医学部付属病院代謝・内分泌内科で1年間勤務しておりました。医師としては、今年で4年目となり、代謝内分泌内科を専門としてからは、2年目となりました。平成21年度は大学病院で糖尿病、内分泌疾患について学ばせていただき、まだまだ未熟ながらも、成長できた部分も多かったと感じております。熊本医療センターに勤務となり、また新たな気持ちで、実りある時間を過ごし、医師として研鑽を積んでいきたいと考えております。ご迷惑をかける点もあるかと存じますがよろしく願いいたします。



脳神経外科

ふじ もと けん じ
藤本 健二

今年度より脳神経外科で勤務させて頂くこととなりました藤本健二と申します。熊本大学を卒業し、熊本大学医学部付属病院と済生会

熊本病院でそれぞれ一年間の初期研修を行った後、熊本大学脳神経外科に入局致しました。

国立病院機構熊本医療センターは救急疾患が多く、非常にやりがいのある職場だと考えております。また、臨床だけではなく、論文執筆や学会発表にも積極的に取り組んでいこうと考えております。

まだまだ未熟で色々御迷惑をおかけすることも多いとは思いますが、御指導御鞭撻のほどを何卒宜しくお願い申し上げます。



整形外科

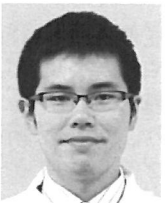
ふく だ まさ とし
福田 雅俊

はじめまして。今春4月から勤務する事になりました福田雅俊と申します。

生まれも育ちも熊本で熊本高校・熊本大学を卒業し、2年間の研修を終えて、平成23年に熊本大学の整形外

科に入局しました。趣味はスポーツ鑑賞で、特にサッカーを観るのが好きです。最近はなでしこジャパンの活躍に注目しており、今年のロンドン五輪が楽しみで時間があればスポーツBARに観戦に行きたいと思っています。

好きな言葉は一期一会です。医療スタッフの方々はもちろんのこと、患者様一人一人との出会いを大切にしていきたいと思っています。まだまだ経験が浅く、先生方にご迷惑をおかけすることが多々あるとは思いますが、精一杯頑張りますので御指導・ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い致します。



精神科

みや がわ ゆう すけ
宮川 雄介

平成24年4月より精神科レジデントとして勤務することとなりました宮川雄介と申します。

平成21年に熊本大学医学部を卒業し、当院で2年間の初期研修を修了しました。その後は熊本大学の神経

精神科に入局し、老年期精神障害を中心に精神科臨床を勉強して参りました。

当院は県内有数の救急病院であり、特に精神科では他科との連携の下、精神科救急を行う重要な役割を担っています。一年ぶりの当院ですが、忙しい救急医療の現場にも、精神科医という専門性のある立場から研修医時代とは違う新しい視点で臨めるのではないかと考えております。まだまだ未熟者ではありますが、先生方のお役に立てますよう一生懸命働きますので、ご指導よろしくお願い申し上げます。



外科

やま ぐち みつる
山口 充

はじめまして。このたび外科に赴任することとなりました、山口充と申します。

私は以前東京大学法学部やNGOなどで国際協力に関する活動をしておりまして、医療分野での協力を志して医師になりました。医学部は神戸大学で、研修医と

しては日赤和歌山医療センターでそれぞれお世話になり、現在医師として3年目です。

当院は癌診療に精力的に取り組むとともに、地域の基幹病院として救急医療においても重要な役割を果たしているとのことで、非常にやりがいを感じております。とは言っても外科医としては1年目であり、当院のシステムはもちろん、地域を取り巻く医療環境等につきましても右も左もわからない状態で、当初は先生方にご迷惑をおかけすることも多々あると思っております。どうぞ寛大なご視点からご指導ご鞭撻いただけると幸いです。

よろしくお願い致します。

研修のご案内

第161回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成24年6月18日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 胸部レントゲン読影
2. 持ち込み症例の検討
3. 症例検討症例検討「慢性血栓性肺高血圧症の一例」

国立病院機構熊本医療センター循環器内科

石井 正将

4. ミニレクチャー「慢性下痢症の症例をつうじて」

国立病院機構熊本医療センター消化器内科

古閑 睦夫

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第129回 三木会（無料）

（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕

日時▶平成24年6月21日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「意識障害にて当科へ搬送されたACTH分泌不全症、部分的尿崩症、潜在性性腺機能低下症などを伴った一例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

橋本章子、岩田康伸、信岡謙太郎、高橋毅、豊永哲至、東輝一朗

2. 「糖尿病性足病変により趾の壊疽を来し切断が必要となった2型糖尿病の一例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

岩田康伸、橋本章子、信岡謙太郎、高橋毅、豊永哲至、東輝一朗

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501(代表) 内線5705

第22回 症状・疾患別シリーズ（会員制）

〔日本医師会生涯教育講座2.5単位認定〕

日時▶平成24年6月23日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：春日クリニック理事長

清田 武俊 先生

演題：「疼痛ーペインクリニックの話題ー」

1. 神経障害性疼痛の緩和療法

国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長

上妻 精二

2. 最近のブロック療法の現状

国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長・集中治療室長

瀧 賢一郎

3. 癌性疼痛緩和療法ー本院の現状ー

国立病院機構熊本医療センター血液内科医長

榮 達智

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費10,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501(代表) 内線2630 096-353-3515(直通) FAX 096-352-5025(直通)

第119回 救急症例検討会（無料）

日時▶平成24年6月27日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

症例検討「小児科疾患」

国立病院機構熊本医療センター小児科部長

高木 一孝

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急隊員、事務部門等、全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

事前参加のお申し込みは必要ありませんので、ご自由にお越しください。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線2630 096-353-3515(直通)

2012年 研修日程表 6月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

6月	研修センターホール	研修室	その他
1日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
2日(土)	13:00~15:30 第124回 看護卒後研修 「今時の若者をできるスタッフに育てる研修」 有限会社AEメディカル代表取締役 野津 浩嗣		
4日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
5日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1
6日(水)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
7日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「呼吸の管理(人工呼吸器の使い方)」 国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長・集中治療室長 瀧 賢一郎		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
8日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
9日(土)	9:30~16:00 第30回 ナースのための心電図セミナー 〈講演〉心電図の基礎 国立病院機構熊本医療センター循環器内科医長 宮尾 雄治 各種心疾患における心電図 国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長 藤本 和輝 不整脈 末藤内科循環器科 院長 末藤 久和 〈実習〉心電計の取り扱い方 国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長 藤本 和輝 他		
11日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
12日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~17:30 外科術前症例検討会 C1 19:00~21:00 泌尿器科・放射線科合同ウログラム C1
13日(水)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
14日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「呼吸の管理(血液ガスの読み方)」 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 江崎 公明	18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会(研2)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
15日(金)		15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「急性肝炎について」	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
18日(月)	19:00~20:30 第161回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
19日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1
20日(水)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
21日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「循環の管理(急性冠症候群)」 国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長 藤本 和輝 20:00~21:30 第60回 医歯連携セミナー 「産科における現在の画像診断とその展望-インプラント・顎関節を中心として-」 九州歯科大学口腔診断学講座画像診断学助教 鬼頭 慎司	19:00~20:45 第129回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座 単位認定] [日本糖尿病学会指導士認定更新のための研修単位<2群>単位認定]	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
22日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
23日(土)	15:00~17:30 第22回 症状・疾患別シリーズ [日本医師会生涯教育講座2.5単位認定] 「疼痛-ペインクリニックの話題-」 1. 神経障害性疼痛の緩和療法 国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長 上妻 精二 2. 最近のブロック療法の現状 国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長・集中治療室長 瀧 賢一郎 3. 癌性疼痛緩和療法-本院の現状- 国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 榮 達智		
25日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
26日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1
27日(水)	18:30~20:00 第119回 救急症例検討会 「小児科疾患」		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
28日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「循環の管理(不整脈疾患)」 国立病院機構熊本医療センター循環器内科医長 宮尾 雄治 18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
29日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
30日(土)	9:00~12:00 楽しく学ぶ基礎看護研修 14:00~16:00 第238回 滅菌消毒法講座	15:30~17:30 熊本地区核医学技術懇話会(研2)	

研1~3 2階研修室1~3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 6東 6階東病棟 6西 6階西病棟 6北 6階北病棟 消化器病センター-読書室 手術室

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ (<http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>) をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501 (代) 内線2630 096-353-3515 (直通)